

# 日本の中学校教員による 自殺予防への認識と課題

熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）  
教授 青石恵子

Sakiko Morieda and Keiko Aoishi: School Health Vol.20, 26-38, 2024  
doi.org/10.20812/jash.SH\_131

## 01 Research

児童・生徒の自殺率が2022年に急増した（図1）ことで、学校における自殺予防教育の重要性が高まっている。しかし、教師が自殺の兆候をどのように捉え、どのような困難や抵抗を抱えながら対策を進めているのか、また看護職との協働をどのように構築すべきかが十分に明らかにされていない。

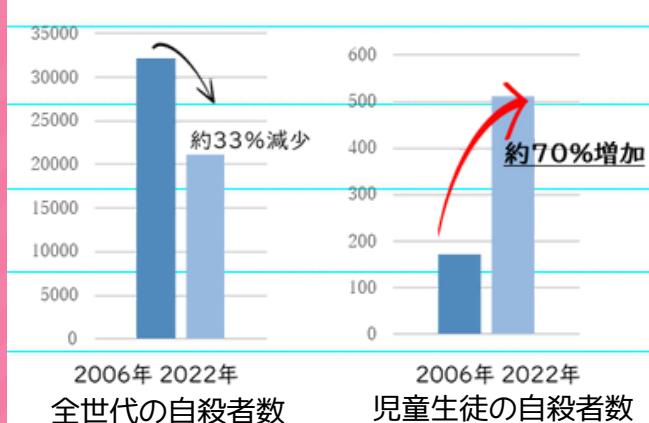


図1. 世代別の自殺者数の推移



## 02 Methodology

- 日本各地の中学校教員10名に対して半構造化インタビューを実施
- 自殺予防への認識、自殺リスクの察知方法、対策実施における抵抗感や困難、さらに看護職との連携支援のあり方について質的帰納的分析をした

### 中学校教員の 自殺予防への取り組み



#### 阻害要因

- 自殺への不安・心理的抵抗
- 多様な問題への対応困難
- 意識・支援体制の不足



#### 促進要因

- 早期発見・予防的対応
- 相談しやすい環境づくり
- 相談・支援の連携強化
- 能力向上の取組

#### 支援の方向性



- 看護職との協働
- 学校相談の導入
- 精神保健・メンタルヘルス支援の活用

## 03 Conclusions

- 自殺リスクの認識として「自殺につながる言動や行動」「家庭不安定」「人間関係の乏しさ」「前兆は些細で不明」など6カテゴリーが示された。
- 教員の抵抗や困難として「自殺への不安」「多様な問題への対応困難」「自殺予防の構築不足」「支援体制の整備不足」などが明らかになった。
- 教師の抵抗感を軽減し自殺予防教育を効果的に進めためには、看護職との連携による精神保健の専門知識の活用や相談の機会が有効であることを示唆した。